

# SLyDIF<sub>I</sub> Kyoto-theme Demo

Masaki Waga

2023 December 9th

# SATySF<sub>I</sub> Conf を後日追ったときの感想

「色々面白いけど、そもそもここ最近  
SATySF<sub>I</sub> を全く使っていないな ...」

# SATySF<sub>I</sub> Conf を後日追ったときの感想

「色々面白いけど、そもそもここ最近  
SATySF<sub>I</sub> を全く使っていないな ...」

→スライドでも作ってみるか

# slydifi-kyoto-theme

- 普段使っているのと同じような theme を組んでみた
  - 実は普段は 4:3 のスライドを使っているというのは秘密
- ロゴの画像を指定したり footer も設定したりできる
- ドキュメントは ... 間に合わないので (多分) 後で書きます ...
- ある程度安定してきたら、どうにかして公開すると思います

# Colorbox

こういうのを書きたいこと、ありますよね！

Colorbox を使えばできますよ

- ↑ みたいな alert みたいなものは ColorBox で実現できる
- こういう枠を任意の場所に追加するのも、SlydifiGraphics.put-text とかを使えば実現できそう？
  - 実はちょっと斜めにしたい、とかもある ...

勿論色も変えられます

# Enumitem

- 柔軟な箇条書きは Enumitem で実現できる
  - 例えば
    1. ここは数字で
    - b. ここはアルファベットで
      - ここは普通の bullet で
- 甲：もはや適当なテキストすら書ける

# BiByF<sub>I</sub>

- 参考文献を載せるのであれば、BiByF<sub>I</sub> が使える一方で以下を何とかしたい
- Citation のスタイルがちょっと好みではない
  - `bibyfi-IEEETran.satyh` みたいなものを実装すれば良い
- 改ページ処理が上手く行かないような気がする
  - これは BiByF<sub>I</sub> 本体の工事が必要？
  - L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の beamer なら `allowframebreaks` オプションで対応可能

# その他

- Figbox や Easytable も便利です
  - が、今回はちょっと省略



ここからは  
「こういうものが書ける」  
という具体例

# 文字列パターンマッチング

- 入力
  - 文字列 : "Nobody knows now"
  - パターン : "now"
- マッチング結果 : Nobody **knows now**

# 文字列パターンマッチング

	N	o	b	a	d	y	k	n	o	w	s	n	o	w
×	n	o	w											
×		n	o	w										
							⋮							
✓								n	o	w				
×									n	o	w			
							⋮							
×												n	o	w
✓												n	o	w

# 文字列マッチングの「読み飛ばし」

Idea: 事前にパターンを解析して、不要なマッチングを飛ばす

- 不要なマッチング：飛ばしても結果が変わらない
- 事前にパターンを解析して、
  1. 不要なマッチングの情報をテーブルとして計算し
  2. マッチング時にテーブルを引きながら不要なマッチングを飛ばす
- 数多くのアルゴリズムが知られている  
例：Quick search [D. Sunday 1990]

# References

- [1] D. Sunday, "A Very Fast Substring Search Algorithm," *Commun. ACM*, pp. 132–132, vol. 33, no. 8, 1990.